



ベンチシートを採用したインテリアはあまりにもストック車としたもの、しかし当時のスーパー・ストックは、まさにこういう仕様で販売されていた。扉の古いオリジナル・ステアリングホイールの横からレブカウンターが見える景色もいかにもそれらしく、ビルダーのセンスが表る。

ペニスに選ばれたコロネットはダッジのインターミディエイト・パワーステンシャーカーで「真価の発露もないうクルマだが、俗に『ポスト』と呼ばれるセンターピラーを有する2ドア・セダンというところが、より軽量でボディ剛性に優れたこのボディ・スタイルこそが、ドラッグレースでは有利に働くのだ。全体的にストック車としたルックスの中にも、スーパー・ストックならではのリーフスプリングでトーションを重視し、オリジナルとは僅かながら姿勢を違えているところがある。インテリアはオリジナルのベンチシートをそのまま採用し、そのあたりは直線だけを走るレースでなければ考えられない仕様と言えよう。そして、このマシンが採用している心臓が、MOPARパフォーマンスの402マグナム・クレートモーターなのである。



'66 DODGE
CORONET
2Dr. POST **STREET-STRIP**
w/MOPAR PERFORMANCE
MAGNUM 402cuinV8

